

なんで旅館が  
日本文化の宝庫と  
言われるの？



Q都スタディトリップは、  
1200年つづくまち京都にあふれる「Q(なんでだろう?)」  
を入口にした、SDGs 探究学習コンテンツです。



詳細はこちら

## 京都の旅館文化と、SDGs

視点

### ① 変化とともに紡ぐ、多様な関係性

京都に数ある旅館の成り立ちを紐解くと、そこには様々な由来があります。全国からの参拝客や行商さんをお迎えしたり、今では修学旅行生に学びの場や海外旅行者におもてなしを提供したり。

京都の旅館は、時代ごとにお客様の願いや社会の潮流に応じて変化を重ねながらも、「おかげさま」で成り立つ関係性の中で文化や産業を共に育んできました。



視点

### ③ 自然を織り込んだ衣食住

京都の旅館には、古くから自然とともに生きてきた日本人の精神が反映されています。床の間にかざる掛け軸と生け花や、夏・冬の建具替えなどの四季の変化を先取りした室礼(しつらい)、風土や気候に応じて心地よく暮らすための建物の仕掛け、旅館で働く方の和装、四季折々の旬の食材を用いた和食にも、日本の豊かな自然がふんだんに取り入れられています。



視点

### ② 旅館を支える、日本の文化

京都の旅館には、今も日本の文化が色濃く残っています。着物などの織物、和装を彩る扇子などの服飾品、食器や美術品として使われる焼き物、襷絵や日本画、お茶やお香、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食、日本の気候・風土に合った素材と匠の技術を生かした建築……。これらの伝統産業は、職人の匠の技により継承され、日本の文化と深く結びついています。



視点

### ④ 暮らしに息づく和のこころ

自然の恵みへの感謝の気持ちを忘れず、無駄を省いて大切に使う「しまつの心」、相手への思いやりを表した柔らかな言葉づかい「京ことば」、そしてさりげない心配りを添える「おもてなし」。京都の旅館でも大切にされてきた、こうした京都の暮らしに息づく和のこころは、持続可能な未来をつくる学びにつながります。



# 松本旅館が取り組む、SDGs



<取り組み> ※当旅館で取り組んでいる内容は☑

## 全ての修学旅行生が日本の歴史や文化、SDGsを学ぶお手伝いを

- ☑修学旅行生をおもてなし
- ☑食物アレルギー対応
- ☑外国人観光客の受入環境整備

## 自然とともにある生き方・暮らし方

- ☑畳
- ☑生花
- ☑床の間・掛け軸
- ☑薫香
- ☑庭
- ☑打ち水
- ☑門掃き
- ☑伝統工芸の調度品
- ☑伝統建築
- ☑和食の提供
- ☑着物など和装での接客
- ☑地産地消
- ☑節水
- ☑エコ製品・再生品

## 支え合いのまち、災害に強いまち

- ☑地域社会への参加貢献
- ☑旅行者へのマナー啓発
- ☑災害時などの危機管理計画の策定

## ものを大切に、無駄にしない心「しまつ」の工夫

- ☑食品ロス削減
- ☑食べ残しゼロの呼びかけ
- ☑ゴミ分別の徹底
- ☑プラスチック削減
- ☑歯ブラシ持参
- ☑マイボトル（水筒）持参

## 身近なモノ・コトによるおもてなしで文化を維持・継承

- ☑文化遺産の保全活動
- ☑伝統文化体験サービスの提供

## 地球にやさしいエネルギーの利用

- ☑節電・省エネルギー
- ☑再生可能エネルギーの利用

## みんなが働きやすい環境づくり

- ☑働きやすい職場づくり
- ☑京ことばでの接客
- ☑従業員のスキルアップ
- ☑従業員のジェンダー平等
- ☑外国人雇用
- ☑障がい者雇用



特徴1：

和室のお部屋には、本い草が使われた畳が敷かれています。日本独自の建築部材の畳の良さを探してみましよう。



特徴2：

旅館の玄関先、打ち水をして、環境のことを考え、また、お客様を迎え入れる環境も整えます。



特徴3：

和室の壁は、日本の建築様式になくはない土壁です。土壁の良さや、特徴を理解し旅館(和室)に宿泊する良さを探ってみましよう。



# 松本旅館が取り組む、SDGs

「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」



わたしたちの旅館は、創業100年を超えています。  
行商人のお客様がご利用になる宿として永くこの駅前で地域の方々と共に助け合い、宿屋を営んでまいりました。  
お客様に少しでも気持ちよく過ごしていただきたいと取り組んでいます。

修学旅行の皆様も、旅館に泊まってSDGsのヒントを見つけてみませんか？

## 【畳】

### アロマの効果でリラックス

畳、日本の古くからある建築仕様です。和室の畳にはたくさんの機能が備わり日本の風土に適した建築材料です。畳には、調湿作用、空気の清浄作用、耐熱作用、そして、吸音作用があります。

畳は、自然のい草を使っており、い草は空気の層を含んでいるため、水分を含んだり吐き出したり呼吸をしています。また、その呼吸で不要な匂いやホルムアルデヒドなどを吸着してくれます。何層にもなる畳自体が床の温度を遮断して、また、衝撃を緩和することにより、音も遮断してくれているのです。最後にい草には、鎮静効果があると言われており、畳表の匂いを嗅ぐと気持ちが落ち着いた感じがしてこないでしょうか。畳はアロマセラピーの一つでもあるのです。

これらの効果が含まれる畳は、京都の畳職人によって作られています。旅館の一番の印象は、和室だと思われれます。和室には畳。日本の一般家屋からどんどんなくなってきている畳ですが、旅館に泊まっていたら畳を感じていただければ、その良さをわかっていただけるのではないのでしょうか。

## 【襖障子】

### 採光（最高）の間仕切り

日本古来の建築、襖障子。動く間仕切りとして和室空間の間仕切りを柔軟に変化させる役割があります。職人が一つ一つ手作業で襖に和紙を貼っています。

襖には、仕切りとして機能だけでなく、和紙と和紙の間に空気の層を設けることで保温機能や、調湿機能、そして、消臭機能が備わっています。平安時代からその存在はあり、鎌倉時代には、芸術の一つとして絵師のキャンバスとしても利用され、今日観られる京都の古寺の室内装飾にもなっているのです。

同じように襖障子より遅れて生み出されたのが、明かり障子、現在の障子です。こちらは、空間を仕切るだけでなく、明かりを取り入れる採光の機能も取り入れられました。

この襖障子、明かり障子は、京都の職人が京和紙を和のりを使い張り付けています。日本古来の和室に使われる障子一つも伝統文化を大切に守った日本風土にあった建築仕様のひとつなのです。

## 【土壁】

### 調湿・消臭効果あり

日本建築の代表と言える壁、土壁の中で「聚楽壁（じゅらくへき）」は、ご存知でしょうか。京都の聚楽第跡地の付近で取れたと言われる上質の土を藁（わら）、麻、紙、スサ、砂、そして、水でこねられた土を京都の高い技術を持った職人（「左官職人」さくあんしよくにん）何層にも塗り仕上げられ、美しい土肌をもった和室を彩りを添える建築仕様の一種です。

この聚楽壁を代表とされる土壁は、日本の風土に大変適しており、調湿機能があり、消臭効果があります。そして、自然のものが使われているにもかかわらず防火性能も優れています。

一番の魅力は、その美しさ。京都の職人が何層も丁寧に塗りあげて作って行くことで「京壁」という日本の代表建築としてのわびさびを感じさせるものになるのです。

また、美しさだけではなくありません。土壁はその素材自体が再利用を施すことが可能な材料なのです。土壁も崩れたり、剥がれたり、時間が経てば傷んでいきます。そんな時、同じ土を再びコネて塗り直せる。そんな長所もあるのです。皆さんのお家の壁には土壁が使われなくなってきていますが、旅館の部屋の壁をご覧になれば分かります。京都の職人がコテを使い丁寧に塗り上げ壁に宿る美しさを。それに再利用されても永遠に放たれる自然の保つ力の凄さ。旅館の中にある、伝統建築、京都の生きる文化、土壁。

この壁を残していくことも、京都の職人を守ること、日本の代表文化、京都の文化を守ることにつながると思いませんか。

## 日本独自の宿泊文化、『旅館』

『旅館』に泊まるだけで、日本の伝統文化に触れていることは確実です。これ以外にも、調度品や、柱、布団、浴衣、料理、至るところで日本を感じ、文化を感じることができる。

世界に2つと無い、日本独自の宿泊文化、『旅館』を守ることも、SDGsのターゲットになると私達は考えます。

